山梨県立大学教職課程自己点検・評価実施要領

令和４年11月８日制定

（目的）
第１条　この要領は、山梨県立大学に設置されている教職課程において、教育職員免許法施行規則第22条の８に基づいて行われる自己点検・評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

（担当組織）
第２条　教職課程の自己点検・評価は、「中学校教諭」「高等学校教諭」「養護教諭」については、山梨県立大学教育委員会教職課程部会（以下「部会」という。）で、「幼稚園教諭」「小学校教諭」については、山梨県立大学人間福祉学部人間形成学科（以下「人間形成学科」という。）で実施する。

（実施頻度および実施時期）
第３条　部会及び人間形成学科は、別に定める自己点検・評価の対象となる項目について、１年に１回点検・評価を実施する。
２　点検・評価の実施時期は、部会及び人間形成学科が定める。

（実施手順）
第４条　部会及び人間形成学科は、部会長及び人間形成学科長の指示の下、別に定める「自己点検・評価シート」の項目ごとに点検・評価を行う。点検・評価の結果、改善を要する事項があると認めた場合は、改善及び向上のための取組を計画した上で、別に定める「改善計画書」に改善計画を記載する。
２　前項に定める手順において、「改善計画書」に記載された事項については、部会及び人間形成学科において継続的に改善状況の進捗を確認する。

（結果の公表）
第５条　部会及び人間形成学科は、点検・評価の実施結果について山梨県立大学のホームページにて外部に公表する。

附　則　この要領は、令和４年11月８日から施行する。

山梨県立大学教職課程の自己点検・評価シート

大項目	中項目	レベル	観点	小項目（確認作業内容）	担当者	回答（誰が、いつ、何を、どのように実施したか等を具体的に記述すること）	評価
１．教育理念・学修目標	（１）教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	大学全体	・具体的かつ明確な形で設定されているか ・教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と３つの方針との関係が必要に応じて意識されているか	３つの方針と教員養成の目標は適切に設定されているか ３つの方針と教員養成の目標の変更があるか	教職課程部会長 人間形成学科長	◉教員養成に特化した３つの方針は策定していないが、教職課程の学習到達目標を設定している。（教職課程部会） ◉人間形成学科において学科としての３つの方針は策定しているが、幼稚園・小学校教諭課程に特化した３つの方針は定めていない。（人間形成学科）	B
	（２）教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	大学全体	・学生や採用権者の意見の考慮、所在する都道府県・政令指定都市教育委員会の策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか	山梨県の教員採用候補者選考試験の動向を把握し、学生に適切に周知されているか	学務課 池田事務室	◉山梨県教育委員会主催の教員採用試験の学内説明会を2022年５月13日と12月19日に実施した。他の自治体等の教員採用試験の情報は、キャリアサポートセンターから学生に対して案内をしている。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（３）教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況	大学全体	・一人一人の学生が教職課程での学修を通じて得た自らの学びの成果（以下「学修成果」という。）や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか	教職課程を履修している学生の学修成果を4年次に開講される「教職実践演習」の中で把握しているか	教職課程部会長 人間形成学科長	◉教職課程の学習到達目標は個々の科目の授業評価や「教職実践演習」での模擬授業、教育・養護実習報告会での報告内容の評価を通じて把握している。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（１）複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況	大学全体	・複数の教職課程間における授業科目の共通開設は、開設に責任を負う学科等の強み・特色を生かしつつ適切に行われているか	教職課程認定基準に基づいて適切に開設されているか	教職課程部会長 人間形成学科長	◉共通開設に向けて拙速に対応するのではなく、学科等の特色を活かした科目配置を実現することができている。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（２）教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	大学全体	・ＩＣＴ（情報通信技術）環境（オンライン授業含む）、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか	施設や図書の配置は適切にされているか	学務課 池田事務室 図書課	◉令和５年度より「ICT活用の教育の理論と方法」が開講されることから、電子黒板や教科書といったICT教材の必要性を教職課程部会で検討し、購入するための予算要求を行った。（教職課程部会） ◉小免課程では、令和３年度にchromebookを20台購入し、「教育方法論」等の授業で活用している。（人間形成学科） ◉教職課程の授業科目の実施に必要な書籍を教職課程部会及び人間形成学科において選定して図書館に蔵書している。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（３）教育課程の体系性	学科等	・法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか ・教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか	法令に基づき必要な科目が開講されているか 各学部・学科の科目との関連性が適切に確保されているか	教職課程部会長 人間形成学科長	◉法令に基づき必要な科目を開講することができている。また、学科等の特色を活かしながら科目を設置しているため、学部・学科の他の科目との整合性も高いと言ってよい。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（４）ＩＣＴの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	学科等	・教員として身につけることが必要なＩＣＴ活用指導力の全体像に対応して各科目間の役割分担が適切に図られているか ・到達目標や学修量が適切な水準となっているか	ＩＣＴ活用指導力の全体像に対応して各科目間の役割分担が適切に図られているか 到達目標や学修量が適切な水準となっているか	教職課程部会長 人間形成学科長	◉令和５年度より「ICT活用の教育の理論と方法」を開講し、各科目を横断する重要な事項を確保することにした。他の科目におけるICT活用指導力の適切な配分は次の課題である。（教職課程部会・人間形成学科）	B
	（５）いわゆるキャップ制の設定状況	学科等	・１単位あたりの学修時間を確保する上で有効に機能しているか	CAP制度はどのように設定されているか CAP制度は有効に機能しているか	学務課 池田事務室	◉学生の学修時間の確保のためにCAP制度を設定し、年間で49単位の履修制限をかけている。ただし、資格課程の必修科目等は履修制限の対象外としている。 　令和４年度前期の履修登録期間終了後に履修登録単位数のデータを集計したところ、教職課程を履修している学生は教職課程を履修していない学生と比較して履修登録単位数が大幅に多くなっていた。 　特に人間形成学科において、履修登録単位数の平均が1年生で61.4単位、2年生で50.7単位となっており、低学年に科目を詰め込むような形で履修登録をしていることから、改善が必要な状態である。（教職課程部会・人間形成学科）	C

山梨県立大学教職課程の自己点検・評価シート

大項目	中項目	レベル	観点	小項目（確認作業内容）	担当者	回答（誰が、いつ、何を、どのように実施したか等を具体的に記述すること）	評価
２．授業科目・教育課程の編成実施	（６）教育課程の充実・見直しの状況	学科等	・学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	学修成果を点検・評価した結果、教育課程の充実・見直しが必要か	教職課程部会長 人間形成学科長	◉授業評価や教職課程FD・SD研修会を通じて教職課程の改善点を把握し、その充実を図っている。今回の自己点検・評価の結果もその一環として活用したい。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（７）個々の授業科目の到達目標の設定状況	授業科目	・法令、教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか	授業科目の内容は法令、教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画を意識されているか 授業科目の内容は学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか	教職課程部会長 人間形成学科長	◉教職課程科目は再課程認定の際に総点検を実施し、コアカリキュラムの要請に応じて到達目標等を設定している。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（８）シラバスの作成状況	授業科目	・教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されているか	シラバスに教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標等が明確に記載されているか	教職課程部会長 人間形成学科長	◉シラバスの記載の仕方については再課程認定の際に総点検し、コアカリキュラムに応じた内容構成としながらすべての事項を明確化した。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（９）アクティブ・ラーニングやＩＣＴの活用など新たな手法の導入状況	授業科目	・授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやＩＣＴを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか	シラバスに少人数のアクティブ・ラーニングやＩＣＴを活用した新たな手法を導入する等、多様な学びをもたらす工夫が記載されているか	教職課程部会長 人間形成学科長	◉アクティブ・ラーニングを実施する場合はその旨を記載している。一斉講義でも問いを投げかけることにより深い思考を促すこともできるが、それがアクティブ・ラーニングとして把握されずにいるおそれはある。理解の共有を図りたい。ICT活用をはじめその他の工夫についても明記するよう働きかけていきたい。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（１０）個々の授業科目の見直しの状況	授業科目	・学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	学修成果を点検・評価した結果、教育課程の充実・見直しが必要か	教職課程部会長 人間形成学科長	◉学修成果の点検・評価の結果を教育課程の改善にどのように活かすかは教員に委ねられているのが実態である。教職課程として何らかの仕組みが必要か、検討したい。（教職課程部会・人間形成学科）	B
	（１１）教職実践演習及び教育実習等の実施状況	授業科目	・教職課程において特に重要な役割を果たす教職実践演習、教育実習（学校体験活動含む）は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか	「教職実践演習」、「教育実習（学校体験活動含む）」は適切な体制で行われているか	教職課程部会長 人間形成学科長	◉教職課程に関係する教員が積極的に関与して科目を運営している。 ◉「教職実践演習」ではフィールドワーク活動の一環として、山梨県教育委員会総合教育センターと連携し、希望する学生は教員研修に参加し、現職教員の職務内容や現場の課題等について理解する機会を設けている。（教職課程部会・人間形成学科） ◉教育実習の巡回について、中・高ではコロナ危機下の影響もあって巡回を実地から電話に代えてきたが、今後対策を講じながら実地巡回を再開したい。（教職課程部会） ◉教育実習の巡回について、幼・小では県内はもとより県外についても積極的に巡回を行っている。（人間形成学科） ◉教育実習の巡回について、養護では積極的に巡回を行っている。 ◉「学校体験活動」について、幼・小では「学校インターンシップ」の科目を設け、全員が３年次に年60時間以上を基準として、幼稚園や小学校でインターンシップ活動をを行っている。（人間形成学科）	A
	（１）成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	大学全体	・成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされているか	到達目標の達成水準により成績評価がなされていることが周知されているか	学務課 池田事務室	◉成績評価基準を科目ごとにシラバスで明記しており、大学全体で授業時に教員からも評価基準の説明をするように促している。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（２）成績評価に関する共通理解の構築	学科等	・同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の平準化を図ることができているか	同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の平準化を図ることができているか	教職課程部会長 人間形成学科長	◉該当科目なし（教職課程部会・人間形成学科）	A

山梨県立大学教職課程の自己点検・評価シート

大項目	中項目	レベル	観点	小項目（確認作業内容）	担当者	回答（誰が、いつ、何を、どのように実施したか等を具体的に記述すること）	評価
３．学修成果の把握・可視化	（３）教員の養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況	学科等	・教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されており、それがどの程度達成されているか ・教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか	教員の養成の目標到達の確認指標を示して「履修カルテ」を活用しているか	教職課程部会長 人間形成学科長	◉「履修カルテ」については、各免許課程の学修の到達目標をどの程度達成できているか、２年次生以上がGoogle Classroomなどを用いてデジタル・ポートフォリオの形式で自己評価を行っているが、十分な活用には至っていない。（教職課程部会・人間形成学科）	B
	（４）成績評価の状況	授業科目	・各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・評語に反映することができているか ・公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか	成績評価に関する疑義に対して適切に対応することができているか	学務課 池田事務室	◉公開された成績に疑義等がある場合に、学生から教員へ照会する「成績確認申請制度」があり、教員から学生へ成績付与の理由等について説明をする機会を設けている。（教職課程部会・人間形成学科）	A
４．教職員組織	（１）教員の配置の状況	大学全体	教職課程認定基準（平成13年７月19日教員養成部会決定）で定められた必要専任教員数を充足しているか	教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足しているか	教職課程部会長 人間形成学科長 学務課 池田事務室	◉すべての教員免許課程において、必要専任教員数を満たしている。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（２）教員の業績等	大学全体	・担当授業科目に関する研究実績の状況 ・担当教員の学校現場等での実務経験の状況	教職課程科目を担当している教員について、過去１０年以内の研究実績があるか 教職課程科目を担当している教員について、学校現場等での実務経験のある教員が配置されているか	教職課程部会長 人間形成学科長 学務課 池田事務室	◉科目担当者の変更時に直近の研究業績等があるかについては、中高養免許課程については教職課程部会で、幼小免許課程については人間形成学科で確認をしているが、長期にわたって雇用されている教員については、直近の研究業績があるかについて確認が不十分なところがある。（教職課程部会・人間形成学科） ◉「各教科の指導法」や「教育の基礎的理解等に関する科目」において、学校現場等での実務経験を有する教員を配置している。また、教育実習の事前事後指導や教員採用試験対策のために、学校現場での管理職経験のあるものを特任教授として配置しており、学生指導に学校現場の視点が入るように取り組んでいる。（教職課程部会・人間形成学科）	B
	（３）職員の配置状況	大学全体	・教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか	配置された職員数で適切であるか	教職課程部会長 人間形成学科長 学務課 池田事務室	◉教職課程担当職員として、飯田キャンパス（幼小中高免許）で1名、池田キャンパス（養教）で1名を配置して教職課程の運用にあたっている。国の教育政策や地域のニーズに変化があり、教員養成に対する質保証が求められている中で、事務組織の在り方が適切かどうかを再検討する必要がある。（教職課程部会・人間形成学科）	B
	（４）ＦＤ・ＳＤの実施状況	大学全体	・いわゆる教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのＦＤ・ＳＤが確実に実施されているか ・ＦＤ・ＳＤが適切な内容が実施できているか、実際に参加が確保できているか	ＦＤ・ＳＤが適切な内容かつ効果的に実施されているか	教職課程部会長 人間形成学科長 学務課 池田事務室	◉令和４年12月10日に教職課程を管轄する教職課程部会が主催となり、教職課程を修了する予定の４年生を交えて学生参加型のFD・SD研修会を実施した。 ４年生については、平成31年（令和元年）からの改正教育職員免許法に基づく新カリキュラムで教職課程を履修した学生であることから、カリキュラムに対する改善や指導体制に対する要望について意見交換を行った。 今後、令和６年度から実施する予定の新カリキュラムにおいて意見等を反映させる予定である。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（５）授業評価アンケートの実施状況	授業科目	個々の授業科目の見直しに繋がるＦＤの機会で活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか	授業評価アンケートが適切に実施され、教育改善に活用されているか	教職課程部会長 人間形成学科長 学務課 池田事務室	◉各学期末に各科目で授業評価アンケートを実施しており、授業に対する意見の他に、本学のディプロマポリシーと対応させた「学士力」が授業を通じて身に付いたかを調査し、結果をフィードバックしている。（教職課程部会・人間形成学科）	A

山梨県立大学教職課程の自己点検・評価シート

大項目	中項目	レベル	観点	小項目（確認作業内容）	担当者	回答（誰が、いつ、何を、どのように実施したか等を具体的に記述すること）	評価
5．情報公表	（１）学校教育法施行規則（昭和２２年文部省令第１１号）第１７２条の２のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第２２条の６に定められた情報公表の状況	大学全体	法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行えているか	法令に定められた情報公表が適切にされているか	学務課 池田事務室	◉法令に定められた情報公表をホームページにて行っている。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（２）学修成果に関する情報公表の状況	大学全体	大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できているか 等	履修者数の経年変化はどのようになっているか 教員免許取得者が何名おり、そのうち何名が教員として就職をしているか	学務課 池田事務室	◉令和４年度の教職課程履修者 幼稚園教諭：１年生35名・２年生31名・３年生32名・４年生33名 小学校教諭：２年生20名・３年生17名・４年生18名 中学校教諭：１年生14名・２年生７名・３年生７名・４年生10名 高等学校教諭：１年生18名・２年生７名・３年生７名・４年生14名 養護教諭：２年生９名・３年生７名・４年生７名 延べ人数：１年生67名・２年生74名・３年生70名・４年生82名 実人数：１年生53名・２年生47名・３年生47名・４年生52名 ◉令和４年度の教員免許取得者 幼稚園教諭１種免許状：33名 小学校教諭１種免許状：18名 中学校教諭１種免許状：７名 高等学校教諭１種免許状：11名 養護教諭１種免許状：７名 延べ76名、実人数49名 そのうち教員として就職したのは、幼稚園・保育教諭７名、小学校教諭12名、中学校教諭３名、養護教諭２名である。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（３）教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況	大学全体	根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表することができているか	自己点検・評価の結果をわかりやすくHP 上で公表しているか。	学務課 池田事務室	◉令和４年度の教職課程に関する自己点検・評価について取りまとめてホームページ上で公開した。（教職課程部会・人間形成学科）	A
6．教職指導（学生の受け入れ・学生支援）	（１）教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	大学全体	・教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができているか ・教員の養成の目標に照らして適切に学生を受け入れているか	年度当初のオリエンテーション等で学生に対して教職課程に関する適切な情報提供がされているか	教職課程部会長 人間形成学科長 学務課 池田事務室	◉年度当初のオリエンテーションで各学部にて教職課程を履修する学生を対象としたオリエンテーションを実施している。 ◉教職課程の履修に関する相談は、教職課程部会及び人間形成学科の担当教職員が対応している。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（２）学生に対する履修指導の実施状況	大学全体	・必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか ・「履修カルテ」を適切に活用できているか	教職課程を履修している学生からの各種相談に適切に対応しているか 「履修カルテ」を適切に活用できているか	教職課程部会長 人間形成学科長 学務課 池田事務室	◉教職課程の履修に関する相談は、担当教職員が対応している。（教職課程部会・人間形成学科） ◉履修指導においては、２年次以上の学生に課している「履修カルテ」の記載内容を適切に利用していく必要がある。	A
	（３）学生に対する進路指導の実施状況	大学全体	・学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか	キャリア支援において学生のニーズに応じた指導を行っているか	学務課 池田事務室	◉キャリアサポートセンターにて、教員採用試験を受験する学生を対象とした採用試験対策講座を４月から５月にかけて６回実施した。また、教職に関するキャリア形成については、人間形成学科および教職課程部会の教員が指導している。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（１）教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況	大学全体	教員の採用を担う教育委員会や各学校法人と適切に連携・交流を図り、地域の教育課題や教員育成指標を踏まえた教育課程の充実や、学生への指導の充実につなげることができているか	教育実習運営協議会を通じて関係機関等の連携がされているか	教職課程部会長 人間形成学科長 学務課 池田事務室	◉教育実習開始前の５月と教育実習終了後の２月の年２回にわたって、山梨県内の実習校を管轄している行政機関の管理職と実習協定校の校長を委員とする「教育実習運営協議会」を実施している。新型コロナウイルスの影響で令和２年度以降は書面での開催となっていたが、令和４年度は２月に対面で会議を実施し、教育実習の運営に関して意見交換を行った。（教職課程部会・人間形成学科）	A

山梨県立大学教職課程の自己点検・評価シート

大項目	中項目	レベル	観点	小項目（確認作業内容）	担当者	回答（誰が、いつ、何を、どのように実施したか等を具体的に記述すること）	評価
7．関係機関等との連携	（2）教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	大学全体	教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか、学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか	教育実習の巡回指導は適切に行われているか 教育ボランティアやインターンシップを通じて山梨県内での学校体験活動が適切に行われているか	教職課程部会長 人間形成学科長 学務課 池田事務室	◉巡回指導について、原則として山梨県内は実習校へ赴いて指導している。山梨県外は、実習校からの要請があれば実習巡回を行っている。実習巡回ができない場合は、教職課程部会の担当教員および人間形成学科の教員が電話にて実習の様子を聞き、実習校との連携を図っている。（教職課程部会・人間形成学科） ◉「教職サービス・ラーニング」（中・高・養）や「サービス・ラーニングⅡ」（幼・小）の授業において、甲府市や甲斐市を中心に教育ボランティアの説明会を行い、受入先との調整等を行っている。また、「学校インターンシップ」については、人間形成学科において実習協定校や各自治体の教育委員会と連携して受入の調整等を行っている。（教職課程部会・人間形成学科）	A
	（3）学外の多様な人材の活用状況	大学全体	学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用することができているか	教職課程科目において、学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用しているか	教職課程部会長 人間形成学科長 学務課 池田事務室	◉各科目において、必要に応じて学校現場等での実務経験のある人物を授業にゲストスピーカーとして招き、活用している。また、教育実習の事前事後指導や教員採用試験対策のために、学校現場での管理職経験のある人物を特任教授として配置し、学生指導に学校現場の視点が入るように取り組んでいる。（教職課程部会・人間形成学科）	A

〇評語については、Ａ、Ｂ、Ｃの３種類とし、Ａは「適切に実施されている」、Ｂは「概ね適切に実施されているが、不十分な点がある」、Ｃは「改善の必要がある」を意味する。
〇評価が「B」または「C」の場合は、改善計画書に沿って定めること。

改善計画書

大項目番号	中項目番号	評価	回答（誰が、いつ、何を、どのように実施したか等を具体的に記述すること）	改善を必要とする点	改善策（誰が、いつまでに、何を、どのように実施するか等を具体的に記述すること）
１．教育理念・学修目標	（１）教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	B	◉教員養成に特化した３つの方針は策定していないが、教職課程の学習到達目標を設定している。	◉教員養成に特化した３つの方針を策定していない点。	◉開設学部・学科の３方針や山梨県の「やまなし教員育成指標」および「やまなし養護教諭育成指標」を参照しつつ、令和５年度に策定に向けた準備を進める。
２．授業科目・教育課程の編成実施	（４）ＩＣＴの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	B	◉令和５年度より「ICT活用の教育の理論と方法」を開講し、各科目を横断する重要な事項を確保することにした。他の科目におけるICT活用指導力の適切な配分は次の課題である。（教職課程部会・人間形成学科）	◉「各教科の指導法」においてICT活用をどの程度導入するかについて担当教員に委ねている点。	◉教職課程部会長および人間形成学科長が、「各教科の指導法」の担当教員に対し、令和５年度に、科目の特性を踏まえたICT活用の教育方法について講義に含めるよう積極的に働きかけていく。
２．授業科目・教育課程の編成実施	（５）いわゆるキャップ制の設定状況	C	◉学生の学修時間の確保のためにCAP制度を設定し、年間で49単位の履修制限をかけている。ただし、資格課程の必修科目等は履修制限の対象外としている。 令和４年度前期の履修登録期間終了後に履修登録単位数のデータを集計したところ、教職課程を履修している学生は教職課程を履修していない学生と比較して履修登録単位数が大幅に多くなっていた。 特に人間形成学科において、履修登録単位数の平均が1年生で61.4単位、2年生で50.7単位となっており、低学年に科目を詰め込むような形で履修登録をしていることから、改善が必要な状態である。（教職課程部会・人間形成学科）	◉とりわけ人間形成学科の１・２年生の履修登録単位数が多く、各科目において十分な学修時間が確保されていないおそれがある点。	◉幼稚園・小学校教諭免許課程では現在科目の精選・修正作業を行っており、2024年度から新カリキュラムの運用を開始する予定である。
２．授業科目・教育課程の編成実施	（１０）個々の授業科目の見直しの状況	B	◉学修成果の点検・評価の結果を教育課程の改善にどのように活かすかは教員に委ねられているのが実態である。教職課程として何らかの仕組みが必要か、検討したい。（教職課程部会・人間形成学科）	◉学修成果の点検・評価の結果を教育課程の改善にどのように活かすか、教職課程として共通のルールや仕組みが存在しない点。	◉令和５年度は、教職課程部会長および人間形成学科長が各科目の学生による授業評価結果を精査し、必要に応じて担当教員と面談するなどしたい。また、学生のポートフォリオの確認や学生参加型FD・SD研修会の実施を通じて学生の学修の様子を把握し、カリキュラム改定の手がかりとしたい。なお、現在人間形成学科と全学共通科目検討会議で科目の見直しを実施しており、令和５年度は教職課程（中・高・養）においてもそれらの経過や結果を踏まえ、必要なカリキュラム改定を実施する予定である。
３．学修成果の把握・可視化	（３）教員の養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況	B	◉「履修カルテ」については、各免許課程の学修の到達目標をどの程度達成できているか、２年次生以上がGoogle Classroomなどを用いてデジタル・ポートフォリオの形式で自己評価を行っているが、十分な活用には至っていない。（教職課程部会・人間形成学科）	◉学生個人が自身の学修状況を把握し評価する仕組みが整備されていない点。	◉授業評価のねらいが教育の改善のみならず学修成果の把握にもあることに鑑み、教職課程および人間形成学科においてもそのいっそうの活用を図りたい。また、令和５年度夏頃に稼働予定の新教務システムはポートフォリオ機能を備える予定であり、それも活用していきたい。

改善計画書

大項目番号	中項目番号	評価	回答（誰が、いつ、何を、どのように実施したか等を具体的に記述すること）	改善を必要とする点	改善策（誰が、いつまでに、何を、どのように実施するか等を具体的に記述すること）
４．教職員組織	（２）教員の業績等	B	◉科目担当者の変更時に直近の研究業績等があるかについては、中高養免許課程については教職課程部会で、幼小免許課程については人間形成学科で確認をしているが、長期にわたって雇用されている教員については、直近の研究業績があるかについて確認が不十分なところがある。（教職課程部会・人間形成学科） ◉「各教科の指導法」や「教育の基礎的理解等に関する科目」において、学校現場等での実務経験を有する教員を配置している。また、教育実習の事前事後指導や教員採用試験対策のために、学校現場での管理職経験のあるものを特任教授として配置しており、学生指導に学校現場の視点が入るように取り組んでいる。（教職課程部会・人間形成学科）	◉研究業績については、常勤・非常勤を問わず直近のものについては精査できていない点。	◉令和５年度より、教職課程部会および人間形成学科において４年に１度、担当教員の研究業績等を確認する機会を設けるようにし、科目担当者として適正であるかどうかを確認していきたい。
４．教職員組織	（３）職員の配置状況	B	◉教職課程担当職員として、飯田キャンパス（幼小中高免許）で1名、池田キャンパス（養教）で1名を配置して教職課程の運用にあたっている。国の教育政策や地域のニーズに変化があり、教員養成に対する質保証が求められている中で、事務組織の在り方が適切かどうかを再検討する必要がある。（教職課程部会・人間形成学科）	◉職員数が足りず、職員ひとりの負担が大きい点。	◉教職課程部会および人間形成学科から令和５年度中に法人に対し、教職課程（幼・小・中・高・養）専従の事務職員を置くように求めるための準備をしたい。